

「生活デザイン科」ということで得られた成果（6年生自由記述）
料理をする時の工夫や調味料の種類や使う場面の違い、家ででの生活がしやすくなる工夫、クレジットカードなどの支払い方法の違いなど、将来生活する場面で必要なことを学べた。
料理や洗濯の知識、住宅やクレカなど金融の仕組みなど、一人暮らしやこれから生きていくのに役立つようなものを知れたこと
料理や裁縫などの実践的なスキルに加え、住居や栄養管理など日常生活をより豊かにする知識を身につけることができた。
料理の作り方、楽しみ方
本来家庭科で得られる生活をするための知識に加え、生活を豊かにしたり、彩ったりする知識や文化
物件や洗濯、クレジットカードなど将来役立つような幅広い知識を学べたこと。
普段何気なく食べている食べ物の、食卓までの過程を知り、食事がより楽しくなった。
普段の生活に最も密接な教科であるため、生活、特に健康管理に関する役立つ知識を得ることができた。
また、契約などの社会制度の役割や危険について学び、将来設計について考えることができた
普段の生活に応用できる知識を得られた
不動産のチラシの見方や、悪徳商法の種類について学び、自立して生きていく上で必要なことを学ぶことができた。また、さまざまなことを通して、生活能力を向上することができた。
日本の伝統派など、食についての深い知識、そして、住宅選びにおける盲点を学ぶことができた
日常生活の中で役立つ、食生活について学ぶことができ、また、契約などの将来に備えた知識も得ることができた。
日常生活の知識
日常生活に役立つ知識
日常生活におけるさまざまな知識、文化、伝統
日常生活で使う知識や技術(裁縫、料理、洗濯)
特になし
地理的要素などを、もっと身近に落とし込んで、実用的な情報が得られた。
知識だけでなく、将来的に自分の生活に関わっていく法律や住居などについて自分ごととして捉えることができた。
洗濯や栄養など生活に必要な知識を深く学ぶことができた。
洗濯、料理などの知識
生活力。
生活力、1人で生きていく力
生活を送る上で必要な知識や教養を身につけることが出来た。
生活をする上でなくてはならない衣食住の理解度が深まった。また、自身の生活をより豊かにする方法や知識も学べたのではないと思う。
生活に不可欠な衣食住についての知識で、さらに便利で自分に合った方法をしることができた。
生活に必要な最低限度の常識を学び、自立を促す。

生活デザイン科の授業で人生設計の授業があり、これからの人生で起こることやそれにかかるコスト、リスクを回避する方法を知ることができ、私の人生を今後生きていく上で重要な授業となった。また、栄養素の授業の時、栄養素の名前や働きを詳しく知ることができ、自分の食習慣の改善に役立てられたことで、健康になることができた。
生活デザイン科では日常生活において役に立つ知識を得るだけでなく、それを実際に授業内で実践することでそれらの知識を身につけることができた。この授業で得た知識はこれからの生活に役立っていくと思う。
生活デザインでは所謂家庭科を勉強したのですが、得られた成果はもちろん生活力に対する知識だと思います。3・4年?で調理実習やミシンなどの扱い方を実例を通して学び、5年では主に知識メインで学習しました。料理や裁縫、掃除など家事全般もそうですが、加えて一般常識から大人になってからの常識(法律、お金の扱い、未成年としての立場、契約)など、今後自分達が自立して生きていく上で何が大切かを学べた学問です。
生活する上で必要な知識を学ぶことができた。 衣類の洗濯の仕方から詐欺に騙されないようにするための知識など、様々な分野での解決法を学ぶことができたので、とてもためになった。
生活する上で必要な知識
生活する上で、必要あるいは、得ること。法律的な面や、技術的な面まで幅広く多くのことが習得できた。
生活していく中で、住宅の知識、契約などの必要な知識を得ることができた。
生活していく上で常識に知っておくべき社会の制度や栄養などの知識を得ることが出来た。
生きていく上で気をつけたいことがたくさん学べた。保険制度とか税金とかクレジットカードとか洗濯とか食生活とか。
成人になって自分がすべきことを理解し、できるようになった。
成人して様々なことを自分の責任でやっていくにあたり、必要な知識を身につけることが出来た。
身近な住まいの仕組みや食の基礎的な知識
食料添加物についての問題について学べた。食品表示のルールで使われているが表示されていないこともあるという知識。
食物の栄養素や加工方法、また、衣服や住環境など身の回りのことについて学びました。将来自分が自立して生活する時の知識を身につけることができたと感じました。
醤油のうまい使い方とクレジットカードの危険性についての知識
小学校の頃は、家庭科は家事を学ぶための教科という印象が強かった。東大附属に入ってから、家庭の全てが社会とつながっていると感じられるようになった。家事だけ上手くできても生活できない。私たちの生活には経済も法律もたくさん関わっている。自分の人生を生きる上で、生活デザイン科で学んだことが影響すると思う。 そういった実社会において生き抜く力のようなものが身についた気がする。
将来大人になったときに必要な住宅、食品などの衣食住に関する知識
将来生きていく上で必要になるであろう社会のルールについて学べた
将来自立していく上で、家事だけではなく、金融の仕組みを学ぶことができたこと。

将来に必要な知識を知れた。
住居、食、保険についての授業が印象的である。これから大人になり、一人暮らしをするに当たってとても大切なことを学べたと思う。食については、班毎に担当する五大栄養素について授業形式のプレゼンテーションを行った。ただ一方的に情報を伝える形のプレゼンテーションではなく、聞いている側が心を動かされるような双方向のコミュニケーションが取れるプレゼンテーションを考えることで、相手へ伝わりやすい情報の伝え方を学ぶことが出来た。住居については、理想の住居の間取りを自分で書いた。住まい選びには周囲の環境や交通の便など様々な要因を考える必要があると知り、今後の人生にとっても役立ちそうである。
住まいの探し方や簡易的な料理の作り方などを始めとする、日常生活において必要とされる能力の習得
社会に独り立ちしていく上で必要な知識を得られた。衣服の手入れの仕方、食品の安全性、住まいの選び方など衣食住に必要なものを学べた。
社会に出た時、一人暮らしをする時などに充実した生活を送るための技術や知識を得ることが出来た。
社会で生きていく中で必要な知識を得られた。食事、契約、住宅など
実際の生活に関わる社会のシステムや法律、お金の流れを知ることができた。
自立のために必要な栄養の話や日常生活の知識
自分の生活を見つめ直すきっかけになった。どのように衣食住が成り立っているのか、自分がどのようにして成長したのか、暮らすために必要な法律などを知ることが出来たことはとても良い経験だったと感じる。
自分が自立する時の参考になる情報を得られた。
自分が今までどのようにして成長してきたのかが分かった。保育園実習や保育についての授業で、自分が赤ん坊のときや幼児のときにどのような生活をしてきたのか、いかに自分が親に苦勞をかけてきたのかを改めて実感した。また、資産形成の授業と合わせて自分の人生をどのように設計していくべきか考えるきっかけになった。
資産運用から消費者トラブル、間取り、洗濯、栄養素など、自立して生きるために必要な知識を教わった。
普段料理をお手伝い出来ていないので、調理実習では料理に慣れることができた。
子供について、住まいやお金などの将来に役立つ内容
裁縫や調理洗濯、栄養バランスなど生活で役立つ知識を得ることができ、それらを使えるようになった。
今後成人となり、社会に独り身を投じる中で必要な知識を身につけることができた。保険制度や法律を通して生活の質をあげたり、安心して暮らす方法について考えたり、調理実習や味見を通して料理をすることの楽しさを学ぶことができた。
今後自立して行く上で役に立ついろいろなことを学ぶことができた。
今後一人暮らしする時に必要となる衣食住の知識

<p>今の若者は成人になることに対することについて無知すぎると考えていて、それは他校の学校教育で18歳成人についての教育が少ないからだと考えた。本校の生活デザインの授業だと成人になること発生する権利や問題を他校より深く学ぶことができ、成人になることに対する心構えを持って生活できている。他にも、もし家を建築する場合、ここの土地は第1種低層住宅専用地域だから用地面積が。といったようなことや、ものを買う時にリボ払いにするとこういう払い方をするから借金みたいに一生続く。みたいなことを学んだ。他校では受験に必要なので情報、技術と統合されてしまい将来必要になるであろう知識が高校期間で学べないと考えた。この知識は大学では大抵学べないので将来社会に出た時に直面するであろう生活に関する課題に全く知識がない状態で対策しなければならなくなり正しい選択ができない若者が増えてしまう。これは若者個人の問題だがその若者が日本を率いていくと考えると恐ろしい。その分本校ではそのような教育まで行っているため社会に出てから何かしら生活に対する問題が発生しても対策する術を知っているため正しい選択をできる可能性が高い。これはとても大きな成果だと思う。</p>
<p>近隣のコミュニティーとの関わり、家での取り組みなどについて</p>
<p>季節に応じた住みやすい住居や衣服の工夫、衣服をより長持ちさせるための洗濯方法など今後生きていく上で重要になる知識</p>
<p>簡単な裁縫ができる(半ズボンを作るなど)。何か調理ができる。栄養素や食品添加物、調味料などの知識が得られた。洗濯の仕方が分かる(取り扱い絵表示のみかた、繊維の種類ごとの特徴、漂白剤の種類など)。</p>
<p>家庭的な力</p>
<p>家庭の事を学ぶというよりも、より豊かに、便利に生きるため、生活を良くするために大切なことを学べたという感覚がある。</p>
<p>家の種類や、気候ごとの工夫、食文化など身近な生活の裏側</p>
<p>栄養素や日々の食べ物の構成、高齢化による、現代社会の老人ホームなどの人員不足など、現代を生きる私たちにとって必要不可欠であることを学んだ。</p>
<p>栄養素について</p>
<p>栄養価の知識</p>
<p>栄養にかんするものや、だしについて</p>
<p>一人暮らしをする場合などにおいて、役に立つ生活の基本をまなんでいる</p>
<p>衣食住や子育てのことなど、日常生活に直接関わりがあることを楽しく学べた。</p>
<p>衣食住についての見識が深められた。</p>
<p>衣食住についての基本的な知識を学べた</p>
<p>ミシンと手縫いができる。家を買う時に必要な知識(間取りの見方など)が得られた。食品について(食品添加物や原材料の表記の仕方など)が分かった。詐欺について学んだ。クレジットカードやデビットカードなどのカードの種類が分かった。</p>
<p>とても家庭のことについてわかりやすかった</p>
<p>ご飯の作り方、洗濯のやり方、家の選び方など生きる上で必要な知識や技術を学んだ。</p>

- ・他者と協力し合うこと
- ・衣食住の歴史
- ・衣食住の仕組み(なぜそうしなければならないのか、という点など)
- ・調理の安全性や料理の栄養バランスを学び日常で健康に気を使うことができる
- ・マナーやTPOなどを学ぶことで、社会をしる

「家庭科」で思い浮かべる料理・裁縫・清掃だけでなく、家の間取りの見方や、契約と詐欺についてなど、大人になって自立した生活を送る上で重要な事を沢山学べた。

税の知識や賃貸、さや持ち家についてなど、日本国内で生きていくために必要な知識を学ぶことが出来た。

普段の食事についての栄養知識や、どのように作用するのかを理解することで、食事についての理解が深まった。

部分的な情報を鵜呑みにするのではなく、全体を見て自分に必要な情報を取捨選択する力。食品添加物について、本などの意見や情報を授業内を見て、実際の教科書に書かれている内容と照らし合わせたことで、事実と伝え方の違いを感じたから。